

大阪府立大学 工学域 海洋システム工学課程

総合型選抜 Q&A

Q なぜ総合型選抜を行うのか？

大阪府立大学工学域は、国際的にも評価の高い最先端の研究を行っており、今後とも特に研究を重視した大学として発展していきたいと考えています。また、教育面でも、最先端の研究者や高度な技術者を養成することを目指しています。したがって、このような目的に合致した能力・適性・意欲の高い学生が入学していただくことを希望しています。

工学域では2006年度入試からAO入試（「AO入試」は「総合型選抜」の2020年度入試以前の呼称です。）を開始しました。総合型選抜は、基礎学力に加えて、その他の能力や適性、意欲を多面的かつ丁寧に評価することにより、将来活躍できる優れた資質を持った入学者を決定しようとするものです。

このことにより、一般選抜では十分に能力が評価できない受験生や、優れた適性や高い意欲を持った学生を選抜できると考えています。

Q 本学工学域の総合型選抜の特徴は？

① 基礎学力および様々な能力・適性を多面的かつ丁寧に評価

書類選考・適性検査・口頭試問・面接を通じて、受験者の能力や資質を丁寧に評価します。口頭試問では、海洋システム工学に関係する高校課程範囲の問題を与え、受験者に解決方法を考えてもらい、基礎学力やその他の能力、本学工学域への適性を評価します。

② 総合型選抜入学生へのフォローアップ

工学域総合型選抜コーディネーターや総合型選抜によって入学した学生による、合格後入学までの入学前教育、入学後の学習のフォローアップなど、総合型選抜合格生・入学生に対して手厚い体制が整っています。

Q どのような選抜方法なのか？

第1次選考では、入学者の選抜は志願理由書、自己アピール書、調査書ならびにその他のアピール書類を通じて、志願者の特性、志望課程に関わる科学技術に対する興味や意欲、高校での学習状況を評価します。

第2次選考では、適性検査、口頭試問、面接の成績によって基礎学力、コミュニケーション能力、独創性やひらめき、学問や研究に対する熱意や積極性、視野の広さや倫理観などについて多面的に評価します。

Q 提出する調査書はどのように評価されるのか？

提出いただいた調査書は、志願理由書、自己アピール書と合わせ、第1次選考の評価に使用します。なお、学校推薦型選抜のように、出願要件としての調査書の評点基準はありません。調査書においてどのような評点であったとしても出願することができます。

Q 適性検査はどのような内容か？

学生が「自己発見」や「自己分析」を行うために広く利用されている信頼性の高いツールを用いて、適性検査を行います。この結果は、面接において受験者が本学のアドミッション・ポリシーに適した人物かどうかを見極めるための、判断材料の一つとして用います。適性検査の結果のみを点数化して評点に加えることはありません。なお、適性検査結果は面接前に受験生に開示しますので、受験生は検査結果を知った上で面接に臨むことができます。

また、この検査結果の詳細は後日受験生に送付し、受験生の人間力を培うための材料の一つとして役立ててもらっています。

Q 口頭試問はどのような内容で、何を準備すべきなのか？

口頭試問は、海洋システム工学で学ぶ内容と関係性が高い、高校課程の数学および物理学（力学）の基礎的な部分について問います。これらは、講義形式の集団での口頭試問と、講義内容に関する個別の口頭試問の二段階で評価します。したがって、高校課程における数学と物理の基礎学力を身につけておくことが重要です。また、2021年度入試に限っては、新型コロナウイルスの影響により英語資格検定試験を用いた評価を取りやめた為、高校課程の英語に関する基礎的な内容も問います。これにより英語力を評価します。

さらに、海洋システム工学に関係する高校課程範囲で考えることができる問題を与え、受験者でグループを作ってグループごとに解決方法を考え発表する内容の口頭試問も行います。問題は解が一つに定まるものではなく、問題を多面的にとらえると様々な解決方法が考えられるものとなり、それらを導き最適なものを議論していただくこととなります。これによって、理解度、独創性やひらめき、論理性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを評価します。これに関しては、特別な準備は特に必要ありませんので、「自然体」で受験し、普段の自分の考えを表現していただければ結構です。

Q 他の国公立大学との併願は可能か？

総合型選抜の性格上、基本的には併願できません。総合型選抜の合格者は、本学の定める手続きにより入学を辞退しない限り、前期・公立大学中期・後期日程試験の合格者とはならないことにご注意ください。合格者が特段の都合により入学を辞退する場合は、「入学辞退届」を提出する必要があります。

Q 不合格になった場合、他の国公立大学を受験できる？

上記より、本総合型選抜で不合格となれば、前期・公立大学中期・後期日程試験の判定対象者となります。したがって、本総合型選抜志願者は、合格しなかった場合に備えて、一般選抜志願者として、国公立大学の「前期日程」で試験を実施する大学・学部等から一つ、「後期日程」で試験を実施する大学・学部等から一つ、及び「公立大学中期日程」で試験を実施する大学・学部等から一つ、合計三つまでの大学・学部等に出願することができます。なお、その際は大学入学共通テストの受験等志望する大学・学部の出願要件に留意してください。

Q 受験のためにどのような準備をすれば良いのか？

まずは、高等学校等の教育課程をきちんと学習し基礎学力を高めることと、将来の目標を明確にし、大学で身につけたいことを具体的に考えることが大切です。これは一般選抜においても必要なことです。総合型選抜対策としては、これに加えて十分に自己分析を行い、アドミッション・ポリシーに対して、自分が適合するポイントを明確にし、それをアピールすることが必要となります。

Q 「大阪府内枠」とは？

大阪府内枠は、大阪府内に所在する高等学校等を卒業、または来年3月に卒業見込みの方を優先する受験枠です。大阪府内の高校出身の方は、大阪府内枠および全国枠に併願したものとみなします。

なお、選抜の結果によっては、大阪府内枠の合格者数が募集人員に満たない場合、その不足分を全国枠募集人員に加えます。

Q なぜ入学前教育を実施するのか？

入学前教育は、大学の専門分野に関連する入門的な内容や、大学入学後に必要な高等学校等での学習内容、または専門分野に興味を深めてもらう課題等を、個別かつ丁寧に指導を行っていくもので、メールや郵送を利用することもあります。

大学への入学が早い段階で決定した後の中弛みを防ぐというだけの意味ではなく、本来受験勉強に費やすはずであった時間を有効に使って、大学教育の一端に早めに取り組んでいただくことにより、入学後の学習効果や専門分野に対する興味・学習意欲を高め、優れた才能を大きく花開かせるために行っています。